

編集副委員長 鷲尾 邦彦*

Kunihiko WASHIO*

「レーザー研究」が第25巻1月号から装いを刷新し、A4判になって早くも2年数ヶ月が経過した。改めてこれらのバックナンバーを通して眺めてみると、マイクロチップレーザーや青色半導体レーザー、テラヘルツ電磁波発生など各種のレーザー光源をはじめとして、波長変換結晶や光機能デバイス、軟X線オプティクスなどの新デバイスや、さらにはレーザーアブレーション、光触媒、光通信、メモリー、印刷など、興味が惹かれる種々の応用が詳しく解説されており、これらはレーザー関係の大切な知識の宝庫となっている。ご多忙の中、価値ある解説論文等をご執筆頂いた著者や、リーダーシップをもって紙面の改革等を率先垂範された田畑委員長、並びに熱意ある献身的な他の編集委員や事務局の方々に深く感謝している。私はこの間、「光ファイバアンプ特集号」や「レーザービームの品質測定・評価小特集号」の企画や、「レーザー学会創立25周年記念特集号」の中の電気・電子産業分野の章の編集・とりまとめを担当した程度にしか過ぎず、また大阪と東京で交互に開催される編集委員会も欠席がちだったので、さしたる働きもしておらず、編集副委員長としてLaser Compassへの執筆依頼を受け内心じくじたる思いがする。

さてここで、主題の「レーザー研究」とインターネットに話題を換えさせて頂く。レーザー学会事務局や近畿大学のお骨折りで、レーザー学会のホームページ(<http://www.soc.nacsis.ac.jp/laj/>)が昨年の年頭に開設され、「レーザー研究」に掲載された論文のabstractやSelf-focusの記事などもホームページで簡便に閲覧できるようになったのは喜ばしい。検索エンジンなどに導かれて始めてそのホームページの存在を知り、「レーザー研究」に興味をもって購読を開始していただける新会員が今後ますます増え、レーザーとその応用開発のネットワークが大きく広がることを願っている。

海外に目を転じると、例えば会員数12,500名の米国光学会(OSA)では、既にオンラインジャーナルもOptics Letters Online等5誌に達しており、うちOptics Express誌では、アニメーションなどの動きのある頁や豊富なカラー画像の掲載、及び投稿から掲載まで8週間以内の迅速掲載など、新しい電子出版形態の試みを積極的に進めており、注目される。OSAやSPIEなどへの海外からの投稿は現在60%にも達しているようであり、研究開発成果の1次情報が世界から米国に集中するという構造問題がますます顕著になってきている。これは私見だが、「レーザー研究」としても、ジャーナルのオンライン化や論文投稿から掲載までのスピードアップなどを図るとともに、紙面の一層の差別化と魅力の向上に務め、海外誌との競争にも負けなければならないと考える。

インターネットを通じて書籍販売する「アマゾン・コム」は、1995年に創業したばかりなのにわずか2年でNasdaqへの上場を実現し、いまだ黒字計上していないにもかかわらず、1月末現在株価は100ドルを超えており、高い人気を持続しているとのこと。そこでその秘密の一端が知りたくて、ホームページにアクセスし、レーザーやレーザー加工などに関する図書を検索してみた。データベースを駆使した各種の検索サービスが充実しており、詳しい書籍情報が即座に入手でき、また読者等による書評や関連推薦図書情報なども豊富であった。この「アマゾン・コム」は企業であって、公益団体ではないが、その旺盛なサービス精神とインターネット活用戦略の一端は学会誌としても見習ってゆかなければならないのでは、と感じた。私はインターネットに関する技術やサーバー運営のコスト情報等に乏しく、専らアクセスして利用するばかりであるが、インターネットと連携したデータベース等に詳しい専門家の力添えを得て、「レーザー研究」の電子化に向けた取り組みを一層強化してゆく必要があると考えている。設備投資等で先立つものは会員増でまかなう必要があると思うので、魅力ある企画・紙面作りの面から、微力ながら会員増に貢献してゆきたい。

* NEC 制御システム事業本部 (〒229-1198 神奈川県相模原市下九沢 1120)

* Control Systems Operations Unit, NEC Corporation, 1120 Shimokuzawa, Sagamihara, Kanagawa 229-1198